

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 26 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25380434

研究課題名(和文) 19世紀半ばから後半におけるジョン・ブライトの手稿の系統的研究

研究課題名(英文) Study of the manuscripts for John Bright in the middle and later nineteenth century

## 研究代表者

岩間 俊彦 (Iwama, Toshihiko)

首都大学東京・社会(科)学研究科・教授

研究者番号：20336506

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ジョン・ブライトに関する未刊行の手稿史料について系統的に調査した。夏季と春季には、英国のストリート、バーミンガム、ロンドン等にて、未刊行の手稿と刊行資料について調査した。調査を通じて、自由貿易、議会改革、平和主義等に関するジョン・ブライトの政治活動が、未刊行の書簡(ブライトと親族あるいは政治家等)と日録や刊行資料(小冊子、新聞記事、伝記等)と密接に関連しながら進展したことがあきらかとなった。以上の研究から、国際学会での報告(英語)、国内学会での報告(日本語)、共著の英語論文集の刊行(英語論文を寄稿)、英国学術雑誌(査読あり)の論文の刊行等の成果が、あらわれた。

研究成果の概要(英文)：This project systematically conducts research on the manuscripts of and other printed sources of John Bright. First, it investigates the letters of John Bright and his relatives, his journals and the pamphlets and biographies of John Bright on the Alfred Gillet Trust, Street. Second, the documents about John Bright in Birmingham were explored at the Birmingham Archives & Heritage. Lastly, the letters between John Bright and other politicians such as Richard Cobden were examined at the British Library. Through this systematic research, this project shows that the close relationships between the advancement of free trade, parliamentary reform and pacifism, and Bright's activities whose evidence are from his manuscripts and printed sources. In sum, based on this project, two articles in the academic Journals in UK are published, one chapter on the book (in English) was published, and some academic papers in English or Japanese at the several academic conferences were read.

研究分野：西洋社会経済史

キーワード：ジョン・ブライト 19世紀 イギリス 自由貿易 平和主義 議会改革

## 1. 研究開始当初の背景

19世紀半ばから後半にかけて英国の政治経済改革を主導したジョン・ブライト(1811-1889)についての演説・資料集・伝記は、彼の存命中から出版されており、20世紀(特に、第二次世界大戦以降)に学術的研究の蓄積が進んだ。まず、19世紀末から20世紀初めにかけて、民衆政治の英雄的指導者としてのブライトについて重厚長大な聖人伝(hagiography)や、公衆むけの安価な読み物としての伝記が公開された。1913年には、雄弁な演説家・労働者階級の指導者・急進主義的な政治経済改革(自由貿易、平和主義、選挙法改正、反帝国主義)の指導者としてブライトを理解する聖人伝の伝記の決定版である G.M. Trevelyan, *The Life of John Bright* (1913)が出版された。

上記のようなジョン・ブライトを政治経済改革の指導者として描く進歩主義的(ホイッグ的)な解釈は、第二次世界大戦後、一次史料分析に基づいた学術的研究によって修正されていく。まず、H. Ausubel, *John Bright* (1966)によって、急進的な改革運動の指導者としてブライトの役割を過大に評価すべきでないことが主張された。さらに、K. Robbins, *John Bright* (1979)は、急進主義と保守的な政治指向が同居する複雑な存在としてのブライト像を著した。また、P. Joyce, *Democratic Subjects* (1994)は、ポストモダンの手法によりながら、ブライトがナショナルな民主主義の象徴となる過程を描いた。

しかしながら、本研究の遂行者は、上記の研究課題の史料調査の過程で、既存の研究が利用してきたジョン・ブライトに関する手稿史料が、1840年代から1880年代にかけてブライトが関わった政治経済改革の検討に際して、系統的に参照されていないという問題を発見した。ジョン・ブライトの手稿史料は、主に、第一に、リチャード・コブデン等の政治家や社会運動家との間の書簡からなるコレクション(英国図書館(British Library)所蔵)、第二に、ブライトと彼の2番目の妻の間の書簡からなるコレクション(ロンドン大学UCL図書館文書館部所蔵)、最後に、ブライトと親族の間の書簡、コブデン他の政治家の間の書簡、ブライトの日録(journals)に関連するその他の史料からなるコレクション(アルフレッド・ジレット・トラスト文書館(Alfred Gillett Trust、旧C. & J. Clarks Archives))による。

このようなブライトの手稿の3大コレクションは、第一、第二のものについては多くの論文や研究書において参照されてきたが、第三のものは、質・分量ともにブライトの政治経済上の活動や見解に関する証言の宝庫であるにもかかわらず、Trevelyan(1913)で参照されて以降、Ausubel(1966)、Robbins(1979)、Joyce(1994)で、断片的な参照あるいは挿話的な利用にとどまっている。もっとも最近のブライトの伝記、B. Cash, *John*

*Bright* (2012)にいたっては、手稿史料の参照や分析は断片的なものとなっている。さらに、現在の英国の伝記事典の核となる *Oxford Dictionary of National Biography* (2004、以下ODNB)のブライトの項目は、同手稿史料の存在に言及さえしていない(2004年刊の書籍や2010年代初めまでのオンライン版による確認)。このような問題が生じた原因の一つは、第三の手稿コレクションの利用の手段が、非常に限られていたことによる。同問題は、2010年に受け入れ機関側の整備が進んだことによって解決した。よって、1840年代から1880年代にわたるブライトによる政治経済の活動は、これまで行われてきた第1・2の手稿史料コレクションの分析だけでなく、これまで調査・分析が十分になされてこなかった第3のコレクションを整理・分析して、全てのブライトの手稿の証言を系統的に相互参照した上で、考察する必要がある。

## 2. 研究の目的

本研究では、ジョン・ブライトの手稿史料を系統的に分析することによって、1840年代から1880年代における政治経済改革(自由貿易の拡大、覇権外交に対する平和主義、選挙法改正、反帝国主義)に対してブライトがいかに関わったのかという問題について検討しながら、既存の研究で描かれてきた同時代の政治経済改革の指導者という正統的なジョン・ブライト像を再考する。

## 3. 研究の方法

本研究の方法は、以下の3点である。

第一に、ジョン・ブライトの手稿史料と、彼の親族や彼と親交があった政治家の手稿について調査・収集を行う。夏季と春季には、上記の手稿を調査するために、英国のストリート、バーミンガム、ロンドンの文書館等にて、未刊行の手稿史料と刊行資料について調査する。調査の際に、手稿の内容の確認だけでなく、ブライトの関わった政治経済上の改革に基づいて手稿を整理する。

第二に、調査・収集した手稿史料と刊行資料や研究文献を慎重かつ系統的に相互参照して、手稿間の関係、手稿に記された内容の精査、同時代の政治経済の諸問題に対するブライトの対応や見解に関する情報を整理する。

第三に、手稿史料・刊行資料・研究文献の分析により、急進的な政治経済の改革者として位置づけられていたジョン・ブライトに関する見解を再考する研究報告と論文執筆を行う。

## 4. 研究成果

本研究の成果は以下のとおりである。

第一に、ジョン・ブライトの手稿に関する精確な情報の整理を行うことができた。

ブライトの手稿に関する精確な情報を提供するということは、前述のブライトの手稿

の3大コレクションの内容を確認しながら手稿のリストを作成して、既存の研究や資料集の注記や引用を精査することである。英国図書館やロンドン大学 UCL 図書館文書館部の手稿の内容は、Ausubel (1966)の詳細な注記等で把握することができるが、アルフレッド・ジレット・トラスト文書館の手稿を利用した Trevelyan(1913)や Robbins(1979)には、史料について断片的な注記しか存在しない。また、同文書館の手稿を基にしたと考えられる R.A.J. Walling (ed.), *The Diaries of John Bright* (1930) は、その編集方針や手稿の存在に対して英国の歴史家から疑問が出されている(2005年12月、イースト・アングリア大学、アンソニー・ハウ教授の見解)。そこで、本研究では、Ausubel (1966)を基礎にして、英国図書館と UCL 図書館文書館部の手稿のリストを作成しながら、アルフレッド・ジレット・トラスト文書館の手稿に関する既存の研究文献の注記や引用の再確認と同手稿に関するリストを作成して、ブライートの手稿に関する信頼性の高い包括的な手稿リストを作成した。

上記の調査とリスト作成の過程で、前述のブライートに関する日記(diaries)として知られる刊行資料の記述内容については、アルフレッド・ジレット・トラスト文書館に所蔵されるブライートの日録(journals)を常に反映しているわけではないこと、上記刊行資料中の引用については、日録だけでなく引用されている他の文献資料についても精査する必要があることが判明した。このような成果から、ブライートの日記に関する刊行資料を参照引用する際には、常に、関連する手稿や同時代文献の確認が必要であるという、重要な研究上の指針や方針が確立した。

このようなジョン・ブライートの手稿史料に関する情報は、欧米の研究者の間でも十分に共有されているとは言い難く、本研究は、ODNB(2004)のブライートの項目や既存のブライート研究の調査や注記の不備を補うことによって、19世紀イギリス政治経済史研究に貢献することができた。

第二に、ブライートの手稿や刊行資料の間での系統的な相互参照を行うことができた。

アルフレッド・ジレット・トラスト文書館に所蔵されているブライートと彼の親族たちとの間における莫大な数の書簡は、19世紀中頃から後半における政治状況についてブライート自身が記しているという点で貴重な史料である。本研究により、これらの手稿の残存状況や記述内容の大枠が判明した。そして、本研究では、これらの史料が示す証言を、UCL 図書館や英国図書館の手稿の証言、同時代の小冊子、ブライートの演説等に関する資料集、同時代の新聞記事等の証言と相互に参照した。

本研究では、進歩史観に基づいた解釈(Trevelyan(1913))でもなく、史料の証言から素朴に導き出した多様な政治的主張を

有するブライート像(Robbins, (1979))でもなく、歴史的コンテクストに基づいた史料分析によるジョン・ブライートの政治的活動の実体を明らかにすることにつとめた。本研究を通じて、自由貿易、議会改革、平和主義等に関するジョン・ブライートの政治活動が、未刊行の書簡や刊行資料(小冊子、新聞記事等)と密接に関連しながら進展したことがあきらかとなった。

また、特に Robbins (1979)や Joyce (1994)、部分的には Ausubel (1966)において、注記・参照・引用がなされてきたブライートの演説に関する小冊子、ブライートの伝記、ブライートに関する新聞記事に関して、英国図書館その他の機関の調査や検索では所在等が不明のものが少なからず存在したが、アルフレッド・ジレット・トラスト文書館における手稿史料の調査の過程で、同文書館には、上記の所在が不確かであった小冊子、伝記、新聞記事の切り抜き冊子(スクラップブック)等が多数所蔵されていることが判明した。同調査により、ブライートの政治経済に関する発言や記述の検証のためのより信頼性の高い情報と手段が確立したのである。

第三に、手稿史料の調査から、1840年代から1880年代における政治経済改革とジョン・ブライートの関わりについて検討した。

本研究では、ブライートの政治経済改革の核となる部分と見なされてきた自由貿易の拡大・財政や金融制度の改革・覇権外交に対する平和主義・選挙法改正・反帝国主義の立場について、ブライートの親族あての書簡(UCL 図書館文書館部、アルフレッド・ジレット・トラスト文書館所蔵)の証言を軸にして、英国図書館やアルフレッド・ジレット・トラスト文書館に所蔵されているコブデンやグラッドストーンをはじめとする政治家たちとの書簡の証言を比較検討することを試みた。

これらの検討から、本研究は、19世紀中頃から後半における政治経済改革が、ブライートのような急進的政治家による運動・演説・主張、あるいは民衆政治や圧力団体との協力関係の構築や運動の推進以外の重要な要素に注目する必要性が判明した。すなわち、急進的な立場の議員の見解の接合や協力関係の強化と、より伝統的な思考や行動原理を有していた政治家たち(ウィリアム・グラッドストーンやジョン・ラッセル卿)との連携や交渉が、同時代の政治経済改革を実現する上で不可欠であること、また、上記のような行為や見解は、ブライートと彼の親族間での書簡にたびたびあらわれることがあるだけでなく、ブライートと親族の関係が、彼の政治経済改革の活動には必要不可欠であったこと等が、明らかとなった。

このような本研究の見解は、最近完結したブライートの盟友であるコブデンの書簡集(A. Howe and S. Morgan (eds.), *The Letters of Richard Cobden*, 4 vols. (2007-2015))をふまえた研究等にも有益な証言と研究上の

示唆を与えることになる。

最後に、以上のような研究成果は、国際学会での報告（英語）、国内学会での報告（日本語）、共著の英語論文集の刊行（英語論文を寄稿）、英国学術雑誌（査読あり）への論文の掲載等の成果として結実した。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 2 件)

Iwama, Toshihiko, 'Shaping Civic Culture through Public Discussion: The Debating Societies of Birmingham, c. 1850 - c. 1890', *Midland History*, 査読あり, 41 (1), 2016, 57-70.

DOI: 10.1080/0047729X.2016.1159854

Iwama, Toshihiko, 'Parties, middle-class voters, and the urban community: Rethinking the Halifax Parliamentary elections, 1832-1852', *Northern History*, 査読あり, 51(1), 2014, 91-112.

DOI: 10.1179/0078172X13Z.00000000060

〔学会発表〕(計 2 件)

岩間 俊彦、「『バーミンガム史』の形成都市の統治と市史の相互関係、1870年代から1970年代にかけて」、2015年度政治経済学・経済史学会 秋季学術大会、2015年10月18日、福島大学（福島県福島市）

Iwama, Toshihiko, 'Debates, social tensions and consumption in the urban community: Debating societies in Birmingham, c. 1850 - c. 1890', *History of Consumer Culture 2014 Conference: Moving Around: People, Things and Practices in Consumer Culture*, 6 September 2014, Gakushuin University (Toshima-ku, Tokyo).

〔図書〕(計 1 件)

Shin, Hiroki, Majima, Shinobu, Tanaka, Yusuke, Kusamitsu, Toshio, Trentmann, Frank, Rappaport, Erika, Iwama, Toshihiko 他, *Forum for History of Consumer Culture, Japan, History of Consumer Culture 2014 Conference: Moving Around: People, Things and Practices in Consumer Culture: Conference Proceedings*, 2015, 総頁 191, 執筆頁 pp. 177-183.

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等 (計 0 件)

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

岩間 俊彦 (Iwama, Toshihiko)

首都大学東京・社会科学部研究科・教授

研究者番号: 20336506

##### (2) 研究分担者

##### (3) 連携研究者